

忠実な再現と美しさの両立こそ丸武の職人の成せる業

創立者田ノ上忍氏の技術を現在に引き継ぐのは、42人の職人たち。

職人たちは、それぞれの専門性を高めた、完全分業制により、細部に至るまで本物を忠実に再現します。

田ノ上智隆社長は言います。「甲冑のパーツは、かぶと一つとっても、ベース、装飾、塗り、仕上げと複数の職人の手によって完成します。42人の職人は、今や誰もがエキスパートで、誰一人欠けても完成しません。そして、甲冑の素材は、糸、布、革、木、紙、鉄などさまざま。全ての素材からなる甲冑は、言わばそれぞれ一つ一つの工芸品が集まった総合芸術なんです」。50年にもおよぶ製造の実績を持つ丸武の職人が、全て手作業で作れ出す甲冑は、本来持つ美しさを損なうことなく、日本古来の形と伝統を現代にのみがえらせます。それは、まさに甲冑に命を吹き込む行為。

ここ甲冑工房丸武では、完成した甲冑の展示だけでなく、職人たちの作業風景も自由に見学することができます。



旧戦国村から甲冑工房丸武にリニューアルしてから2年。当時、3代目の代表取締役就任するにあたり、リニューアルに携わった田ノ上智隆氏に、その経緯と今後の社の未来について、お話しいただきました。

甲冑工房丸武

代表取締役社長

田ノ上 智隆氏

甲冑工房丸武へのリニューアルにあたっては、「観光施設を復興したい」という思いと「こんなすごい技術が鹿児島島の薩摩川内市にあるということをもっと多くの人に知ってもらいたい」という強い思いで、臨みました。

今の子どもたちは、親に教えられたでもなく、自ら興味を持って戦国武将の名前などを知っています。それはたぶん単純に好きだから。かっこいいと思うから。以前、甲冑の着付けイベントを開催した時に集まった40人の子どもたちが、キラキラした目で甲冑を着て

くれたのが本当にうれしかったことを覚えています。その反面、その甲冑が薩摩川内市で作られていることを知っていたのはわずか5人でした。その時、もっと多くの人に知ってもらわなくては、そして、子どもたちに甲冑技術の未来を見たいという思いを強くしました。

丸竹産業が甲冑製作に乗り出した当時、大河ドラマや戦国映画で使用された甲冑の90%以上は、我が社で製作したものでした。

現在は、リース会社などの経由もあり、もともと我が社で製作したものであることには変わりはないのですが、90%以上を製作したとは言いにくなりましたね。それでも業界80%〜90%のシェアを誇っていると自負しています。

将来は、夢を配信できるような会社になればいいと思っています。甲冑という子どもたちがキラキラするようなものづくりを通して、子どもたちに好きなものは大人になっても好きだという、自分自身もそうであるように。

甲冑という技術で、子どもたちにそんな夢を見せられる会社でありたいと私は願っています。

甲冑工房丸武

〒899-1923
湯島町3535-7
☎(26)3113

